一般財団法人　戸田みらい基金　（第6回建設に関する教育振興に係る助成事業：助成B）

【提出期限：2025年2月14日】

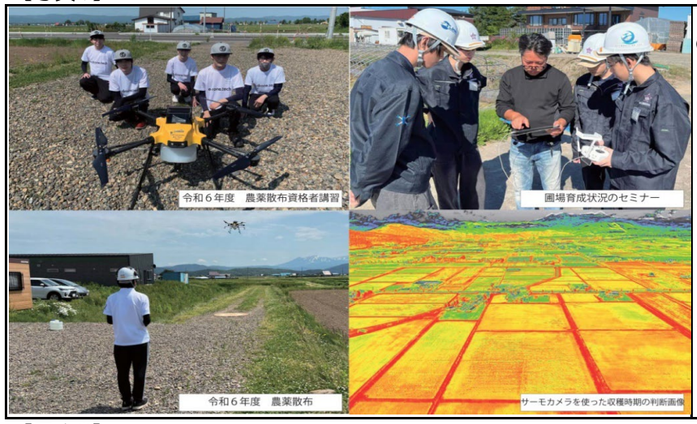
＜活動報告書＞

フリガナ		ホッカイドウアサヒカワコウギョウコウトウガッコウ・テイジセイカテイ・ケンチク・ドボクカ
①学校名		北海道旭川工業高等学校　・　定時制課程　建築・土木
②担当者	フリガナ	
	氏名	
	所属 役職	教諭
	TEL	
	E-mail	
③申請テーマ		『工業高等学校が「生産現場における担い手不足」を解消するための可能性に関する取り組み』
④活動期間		令和６年６月　　～令和７年２月
⑤活動内容 を記載 ※原則「活動説明動画」の提出をお願いします。 「活動説明動画」を提出していただいた場合は記載不要です。		日本は高齢化により生産現場における担い手不足が深刻な問題となり、地域産業や地方創生が衰退している。そして、その衰退により工業高等学校への入学者数も減少し、その結果が生産現場における担い手を排出する数（卒業生）も減少し、いかにこの担い手を育成するかが大きな課題となっている。本校はこれまでに工業高等学校という立場からドローン教育活動を通じて「工業」のみならず「農業」の担い手育成の可能性も追及してきた。昨年度は積雪寒冷地におけるドローンを活用した防災事業に取り組み、高校生がドローンを活用した社会貢献についての事業を展開してきた。しかし、昨年度の事業では根本的な担い手不足を解消するプログラムに至っていない。そこで本事業では、戸田建設株式会社が行っている官民連携で参画したである「農業6次産業化を軸とした地域社会の未来づくり のアグリサイエンスバレー」構想である「加工・流通・販売まで一気通貫する事業」を参考に、高等学校で同様な事業が可能なのかを追及した。具体的には、ドローンを活用した圃場の農作物の育成管理にとどまらず、そこで成長した農作物を加工し販売まで行う事業である。また、本校だけではなく、「農業」を軸とした教育活動を実施している「帯広畜産大学」、「北海道更別農業高等学校」と連携し、今後の地域産業や地方創成の活発化を模索している。その過程においては、様々な関係性を生み出すための事業（旭川市内の他高等学校生徒との連携による旭川市ＰＲのＣＭ作成、ドローン部生徒による小学校出前授業）も行い、ドローンの可能性に向けた教育活動のあり方について言及している。
⑥活動説明動画 の有無		無し
⑦活動費用合計 ※シート②の「2.実績額」の「①事業に要する費用」の合計がリンク		279,822　　円

＜活動状況写真＞

※原則「活動説明動画」の提出をお願いします。
「活動説明動画」を提出していただいた場合は「活動状況写真の貼付、状況説明の記載」は不要です。

【写真1】



（状況説明）
①農業に関する教育活動
　昨年と同様に「ERTS産業用無人航空操縦技術認定農薬コース」の資格を５名が受講して合格しその後、実際に圃場へ農薬を散布している。圃場の農作物が発芽し収穫を迎える時期に、旭川市内でドローンを活用した農薬散布を行っている農家で有名な専門家（市川農場）でドローン画像で得た圃場の発育状態のレクチャーを受ける。その後、うけがわファームにて実際の収穫時期をドローンに搭載されたサーモカメラで調査を行った（赤い部分が収穫可能）。

【写真2】

（状況説明）
②地域の貢献活動
　社会貢献活動の一環として３つの事業を行った。一つ目は旭川市役所からの依頼で旭川市をＰＲするＣＭ撮影を行い他校との連携を実現させた。二つ目は旭川市内の小学校から依頼がありドローン部生徒によるドローン出前授業を行った。この活動の目的はドローン指導をする担い手不足を視野に生徒達の指導者育成である。３つ目がドローンで農薬散布した米を活用しこども食堂にて子ども達におにぎりを提供している。

【写真3】

（状況説明）
③他校連携による食品加工
　上記の２つの活動から、他校連携により調達した食材（更別農高からは農作物である豆類、本校では農薬散布で管理された小麦）を本格的なシェフに提供し加工した創作料理を一般消費者に提供するという企画を行った。この連携には帯広畜産大学も加わり 、離れた地域の高校生が農業と工業の可能性について言及している。 本事業は道内初の企画であったため報道各社から高い評価を得た。そういった意味でも戸田建設のアグリサイエンスバレーを参考にした結果であり助成金を活用できたと言える。